

教育研究室だより

発行：亀山市教育委員会
教育研究室
NO.1 2012.6.27

5月21日（月）いなべ市立石榑小学校石榑ホールで教育研修会が行われました。講師は原田隆史先生で、「未来を切り拓く自立型人間・組織の育成について～いま、全ての大人、そして子どもたちに伝えたいこと～」と題し、子どもの人格を育み、主体的な態度を養うためにはどうすればよいとお話をいただきました。

原田先生は、20年間大阪市の公立中学校教員として、ご尽力なされた後、現在は埼玉県教育委員や高知市教育アドバイザー、三重県政策アドバイザーとして活躍されています。大阪府の松虫中学校に赴任された時は、顧問をされていた陸上部を13年連続で日本一に導かれた経歴もお持ちです。

そんな原田先生も、「原田マジックというものは、存在しない。」と言われます。目標を達成する集団をどのように育成したか、成功を収めた企業の例も交えて話がありました。講演の主な内容を原田先生の言葉をもとに、要点を絞って以下に紹介します。

理想的な組織・集団を育成するには

・未来を描かせる。

→未来セッティング（こうなりたい、ああなりたい）を人生のどこかでしておくで後々活かしてくる。未来の姿から現在の自分の姿が見える。そこから、あせりが生まれ、モチベーションへとつながっていく。**過去は無視する**。未来を向いている人（心のコップが上を向いている人）が強い。

・（学校だけでなく）生活の部分まで教育する。

→目に見えるところではきちんとやっても、見えないところ（家庭生活など）できちんとできなければ、（競技で）結果は出せない。心・技・体・生活の4つを大事にするように伝え続けた。

・「質問」して「気づかせる」

→コーチングでは、答えは言わず本人に気づかせる。

・「習慣」を形成させる。

→大切なことは、毎日繰り返し習慣になるまで行っていく。例えば、日誌をつけさせることなど。陸上部でも、毎日同じ要素のことを書き留めさせた。一日書くごとに、一步一步



目標に近づいていき、最後には日本一を達成する子が出てきた。

・(教師が) **スマイルを大事にする。**

→元気を高めるため。同時に肯定的なストロークを意識して与え続ける。

・**観察・面談・質問紙法を使い、理想の学級を明確にする。**

→「理想の学級とは?」「嫌な学級とは?」「理想の学級になるためにみんなにしてほしいことは?」など問いかけ、集約し思いを共有する。そして、定期的に自己評価させる。

・**子どもには部分否定を行う。**

→人格の否定をせず、「その行為がいけない」と部分否定することがコツ。

強烈に叱っても、部分否定なら大丈夫。



～成功した集団に共通するもの～

時を守る

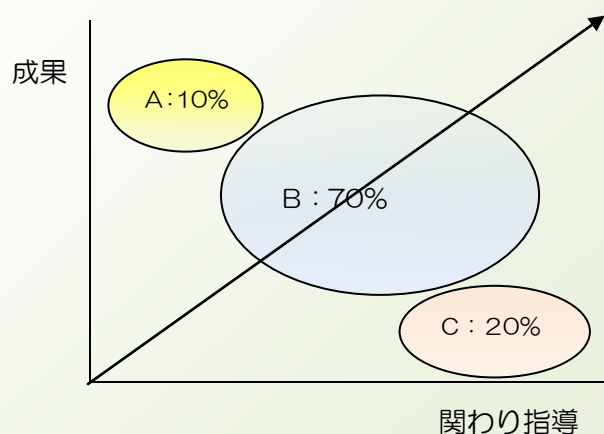
場を清める

礼を正す



学校だけでなく企業や各種組織における、成功した事例を分析すると、少なくともこの3つはどの集団も力点を置いていることが分かってきた。

集団育成の原則 (ABC理論)



指導の順番として、**まずは**、関わり指導による成果の大きい**A部の子**に働きかける。
(いきなりC部の子にいかない)

講師の原田先生は、ご自身の集団づくり・学級経営の経験に加え、多種多様な集団づくりの成功事例を集め、見えてきた共通の手立てについてお話いただきました。先生は講演の中で、生徒指導の原則は「最低・最悪の状態を予測し、最高の準備で臨み、楽観的に対応する」ことだと強調されていたのが印象に残っています。理想的な組織・集団育成の陰には数々のきめ細かな手立てと、それを継続して行っていく実践力があることがわかりました。

(文責：麻生昌宏)

